

嚥下スクリーニング検査について

その食事、提供しても大丈夫！？

今回はそんな時に手軽に実施できるスクリーニング検査についてご紹介します！



必ずしも以下すべてを実施する必要はありません。まずは取り組みやすいものから実施してみましょう！



◆ 反復唾液嚥下テスト (RSST)

被験者に30秒間になるべく早く空嚥下するように指示し、30秒間の嚥下回数を計測します。30秒間に空嚥下2回以下を嚥下障害の疑いありと判定します。

◆ 質問用紙 EAT-10

下記の10項目の質問についての自覚症状を、0~4点で答えてもらいます。合計点が3点以上で嚥下障害の疑いありと判定します。

(0: 問題なし、1: めったに感じない、2: 時々感じる、3: 頻繁に感じる、4: 常に感じる)

- ① 飲み込みの問題が原因で、体重が減少した
- ② 飲み込みの問題が外食に行くための障害になっている
- ③ 液体を飲み込む時に、余分な努力が必要だ
- ④ 固形物を飲み込む時に、余分な努力が必要だ
- ⑤ 錠剤を飲み込む時に、余分な努力が必要だ
- ⑥ 飲み込むことが苦痛だ
- ⑦ 食べる喜びが飲み込みによって影響を受けている
- ⑧ 飲み込む時に食べ物のがどにひっかかる
- ⑨ 食べるときに咳が出る
- ⑩ 飲み込むことはストレスが多い

◆ 3ml水飲みテスト (MWST)

被験者の口腔底に3mlの水を注ぎ、嚥下を指示します。嚥下後に反復嚥下を2回行わせて嚥下の状態を観察します。下記の評価基準で3点以下の場合、嚥下障害の疑いありと判定します。

- 1: 嚥下なし、むせる and/or 呼吸切迫
- 2: 嚥下あり、呼吸切迫 (不顕性誤嚥の疑い)
- 3: 嚥下あり、呼吸良好、むせる and/or 湿性嚙声
- 4: 嚥下あり、呼吸良好、むせない
- 5: 4に加え、反復嚥下が30秒間に2回可能

入院時嚥下スクリーニングについて

一部病棟では入院中の誤嚥・窒息事故の予防のため右図の入院時嚥下スクリーニングを実施いただいております。当センターでは、3つの検査からなるスクリーニングフローチャートの活用を強く推奨しています！！

実施内容の確認、記録は 定期記載ツール> 共通> 摂食嚥下センター> 嚥下スクリーニングシートから可能です。

スクリーニングの解説動画あります!!



一般病棟向け

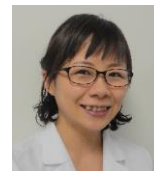


ICU向け

検査の結果、嚥下障害の疑いがあったら！？

嚥下治療センターにご相談ください。端末上から誰でも予約取得可能です！

耳鼻咽喉・頭頸部外科> 嚥下センター または 顎口腔再建治療部> 嚥下治療センター 歯科
予約取得困難な場合は外来にお電話ください。可能な限り対応いたします。



文責)耳鼻咽喉・頭頸部外科 医師 平野愛

スクリーニング実施の流れ

